

令和6（2024）年 くまもと県民カレッジ主催講座
「戦争と平和コース 県央の戦争遺産」講演資料

□日 時：令和6年10月23日（水）14：00～15：30

□会 場：熊本学園大学、KKTくまもと県民テレビ 他

「熊本県央の戦争遺産に学ぶ フィールドワーク」

10/1版

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表 高谷和生

1 はじめに ～戦後79年の諸相～

□戦後世代としての「私の視点」～近現代考古学・戦跡考古学との出会い～

□戦争遺跡保存全国ネットワーク 全国運営委員

□空襲・戦跡九州ネットワーク 事務局長

□平和憲法を活かす熊本県民の会 代表幹事、一般社団法人 くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会 理事

2 熊本県央（熊本市域）の戦争遺産 ～軍都熊本の姿～

(1) 大江・渡鹿地区の概要

※平和継承リーフレット『軍都熊本の残像』

①熊本学園大学「産業資料館」 ※外観のみ

「旧九州紡績・旧日華護謨株式会社熊本工場」

□赤煉瓦造・木軸構造、旧軍需工場建物で唯一



②陸軍歩兵第十三聯隊「食堂・酒保所」

□熊本学園大学第二体育館として、現在も使用

□熊本地震も生き抜いた建物

□大正期に作られたRC構造建物で、熊本市内の軍建物で最大規模、唯一現存

□国登録文化財に向けて



③陸軍歩兵第十三聯隊「皇威無窮（こういむきゆう）」碑

□第六師団・十三聯隊が外地戦争「熱河作戦」での県内に残る、貴重な「満州事変戦勝記念碑」

□3回に亘る移転と語る今の姿



④陸軍歩兵第十三聯隊「正門・脇門」

□国有地・国家公務員住宅移転後、「KKTくまもと県民テレビ」社屋・建物が移転

□市営住宅・引揚者住宅から、MJRマンションへ。民間の善意で守られた「正門・脇門」

□地域の象徴としての「陸軍歩兵第十三聯隊正門の保存と継承」、熊本市文化財指定に向け

□熊本の「戦争の歴史」と「平和希求のシンボル」として保存

熱河河北聖戦記念	昭七七年十二月十五日	出動
従事者 聯隊長	昭和八年十月一日	凱旋
戦病没者	鷺津大佐以下千二百二十七名	
陸軍歩兵中佐	越替貞一	陸軍歩兵伍長
少佐	上原泰行	森本卯次郎
曹長	山口 繁	辻本一雄
陸軍砲兵一等銃工長	木田次一郎	上等兵
陸軍歩兵伍長	市川泰夫	牛島徳男
	野添 □（不明）	山口初男
	吉本 保	東南風原朗
	山内 正	松瀬義晴
	小山 巖	西依 力
	宮村 進	欽田政孝
	田上利夫	小林富雄
		小岱六郎
		緒方鐵喜
		一等兵

歩兵第十三聯隊「皇威無窮」碑の碑文

歩兵13連隊の
営門跡に思う
相藤克秀 67 農業
(宇城市)

熊本市の大江周辺は、日本たばこ産業（JTC）工場跡地の再開発で街の様子が大きく変わろうとしている。戦前、大江には兵営があり、現在の熊本学園大の敷地には、忠勇無双の「歩兵13連隊」が置かれていた。「じゅっさん」と呼ばれていたそう。

その営門跡付近に、保育園が新築、移転し、2人の孫が入園した。先日、孫の迎えに89歳の義母が同乗した。保育園駐車場で「うるが13連隊の営門」と言つと、義母は思い出話を始めた。

「昭和19年夏、あん（兄）さんば見送り来た。夜中の出発で、出征する隊の後ば熊本駅までついて行った。あんさんは南島島の守備隊に行かした。髪の毛が送られてきたけん、あきらめとったバツテン、やせこけて終戦

の9月生きて帰ってこらした。バツテン、ほんなこて、ふの良かった」

私の父は、昭和13年から5年間入営した。祖父は小遣い銭を初年兵のわが子に届けるため、熊本駅から歩いて来ていたそう。父は、昭和18年6月に連隊から選抜された3人の中の1人として近衛に転属した。それは祖父の終生の誇りであった。その思いを、今度はわが孫につなげたい。

(2) 熊本の「陸軍第六師団、通称は「六しだん」

大日本帝国陸軍の歩兵師団の一つ。人員は約25,000名、所在地は熊本-満州-北支-中支-ソロモン諸島、編成地は熊本、通称号/略称は明、補充担任は熊本師管区である。

第六師団は、1872年（明治5年）に設置された熊本鎮台を母体に1888年（明治21年）5月14日に編成された師団であり、熊本・大分・宮崎・鹿児島九州南部出身の兵隊で編成され衛戍地を熊本とする師団である。なお1940年（昭和15年）には歩兵第47連隊（大分）を第48師団に転用し三単位編制に改編。

明治・大正期

1894年、日清戦争では山東半島に上陸して威海衛攻略戦に参戦し、日露戦争では当初第2軍に属し沙河会戦を戦うが、沙河会戦後第4軍に編入され奉天会戦に参戦する。

1910年4月29日、師団司令部留守部を廃止。1916年6月22日、師団司令部が熊本偕行社に移転し、さらに1917年4月5日、熊本市本丸へ移転した。

1923年（大正12年）から1925年（大正14年）にかけて満州に駐屯し、帰国後、1928年（昭和3年）4月の第二次山東出兵に参加する。満州事変では1932年（昭和7年）末に動員がかかり熱河作戦に参戦、さらに中国軍を追って万里の長城まで進出する。

中国大陸戦線

1937年（昭和12年）支那事変（日中戦争）が勃発すると、7月27日には支那駐屯軍隷下となり華北での作戦に従事し、10月20日には第10軍（司令官：柳川平助中将）隷下となり、第18師団・第114師団とともに杭州湾に上陸し中国軍の背後からの攻撃にあたり、続いて南京攻略戦に参戦する。

1938年（昭和13年）2月14日に中支那派遣軍隷下となり徐州会戦を、同年7月4日には第11軍隷下となり武漢作戦を戦う。この間の昭和13年（1938年）5月15日には、留守第六師団の担当で第106師団が編成され、同じく第11軍隷下で武漢作戦に参戦する一方、第6師団は快進撃を続け漢口一番乗りを果たし10月26日に占領する。

太平洋戦線

太平洋戦争開戦後、1942年（昭和17年）11月にソロモン諸島方面の作戦担当の第17軍に編入される。当初はガダルカナル島に派遣される予定であったが大本営はガダルカナル島からの撤退を決定、師団は1943年（昭和18年）初頭にソロモン諸島のブーゲンビル島（Bougainville）南部に進出する。同年11月、タロキナ地区に連合軍が上陸し飛行場を建設したため、第6師団を主力とした第17軍は飛行場奪還を試みるが、1944年（昭和19年）3月の反攻（第2次タロキナ作戦）を最後に組織力消滅。

その後、主戦場がサイパンからレイテ島へと移り、アメリカ軍主力の連合軍は積極的攻勢には出なかったもののソロモン諸島の日本軍は兵站を絶たれ、長く兵器弾薬が欠乏し飢餓と疫病に苦しむ（第2次タロキナ作戦後の歩兵連隊は4,923名（外、戦傷1,787名）、終戦時には1,654名になったという）。

1944年（昭和19年）11月に主力がオーストラリア軍に代わった連合軍は攻勢に転じ、日本軍主力のこもるブイン（Buin）地区に迫ったが、壊滅寸前に1945年（昭和20年）8月15日の終戦を迎えた。同年9月にオーストラリア軍タロキナ基地で降伏文書に調印、南部沖合のファウロ島（Fauro）に収容される。

最終所属部隊 ※主要部隊のみ

- 歩兵第十三連隊（熊本）
- 歩兵第二十三連隊（都城）
- 歩兵第四十五連隊（鹿児島）
- 野砲兵第六連隊
- 騎兵第六連隊
- 工兵第六連隊
- 輜重兵第六連隊
- 第六師団通信隊
- 第六師団衛生隊
- 第六師団第一野戦病院 他

※本第六師団概要資料はウイキペディア等を基に高谷作成

この聯隊は、明治三十二年熊本市山崎町に第一中隊を創設。同二十四年第二中隊を増設し、騎兵第六大隊となり、明治二十八年第三中隊を増設、明治二十九年騎兵第六聯隊の編成なり、十一月二十三日軍旗を拝受す。明治三十二年現在地に移転。昭和十二年八月北支へ出征。爾後騎兵第六聯隊補充隊となり、教育訓練に任じ、聯隊の他、所々にここで編成された騎兵第一〇六大隊・搜索第二十三聯隊・搜索第四十八聯隊・第六師団補充馬廠その他、関係部隊に精鋭を補充し、昭和十五年七月通称名を西部第十九部隊と称す。聯隊は創設以来の数々の戦役事変に出勤し、新編成部隊も共に各々その戦場に極めて悲惨な状況のもと困苦欠乏にたえて、よく騎兵の本領を発揮し赫々たる武功をたてたが、昭和二十年八月十五日大東亜戦争の終結により八月三十一日ブーゲンビル島ソルタイに於て、軍旗を奉焼し、その歴史を閉じた。ここに軍旗の栄光と数多くの戦没英霊の功績を顕彰し、聯隊の名を、永く後世に伝えるため戦友相図り、第一工業高等学校当局の御理解を得て、この碑を建立する。

昭和十五年十一月二十三日建立

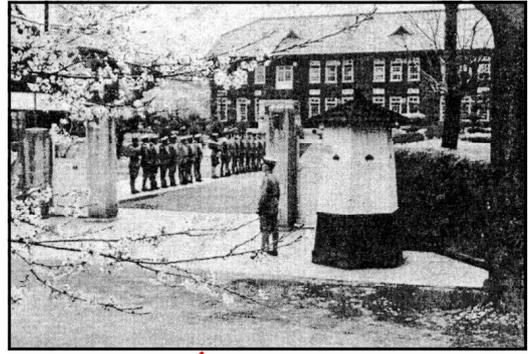
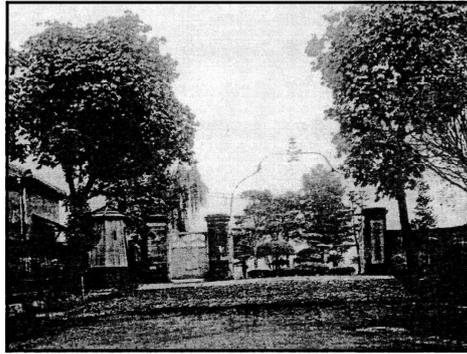
※裏面には
熊本第一工業高等学校
宮崎騎六会 大分騎六会
沖繩騎六会 鹿児島騎六会

※この碑文の句読点は編者でいれました。

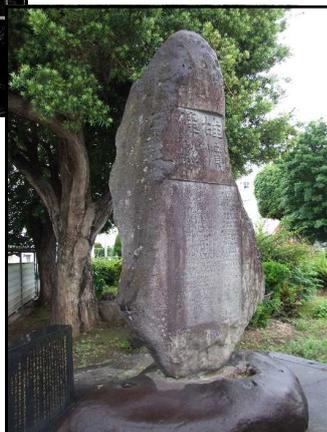
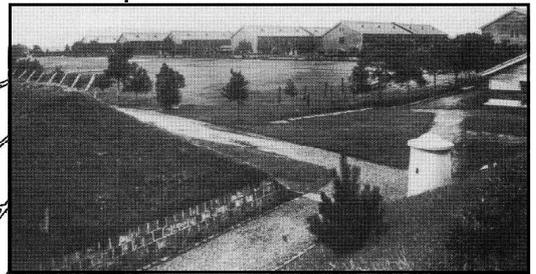
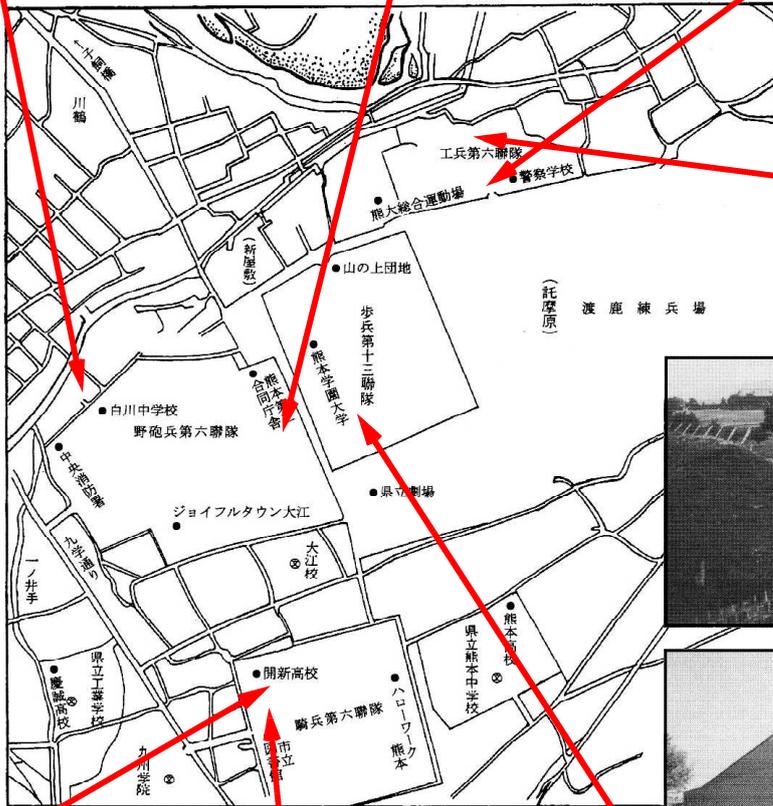
「野砲兵第六聯隊之跡」の碑文

明治七年熊本城内備前屋敷（現合同庁舎附近）に設けられた熊本鎮台砲隊を母隊とし同十七年砲兵第六聯隊が創立され、同二十一年に編成された第六師団の隷下に入り翌二十二年野砲兵第六聯隊と改称同三十二年城内から現在地に移駐同十年野砲兵第六聯隊となり昭和二十年大東亜戦争の終結に伴い七十余年に亘る栄光ある歴史の幕を閉じた。この間、日清日露の両戦役を始めとし濟南、満州、支那の各事変および大東亜戦争に出勤して赫々たる武功を樹てたのである。ここに聯隊縁りの者一同相諮り元兵宮跡に碑を建て光輝ある野砲兵第六聯隊の名を永く後世に伝えるものである。

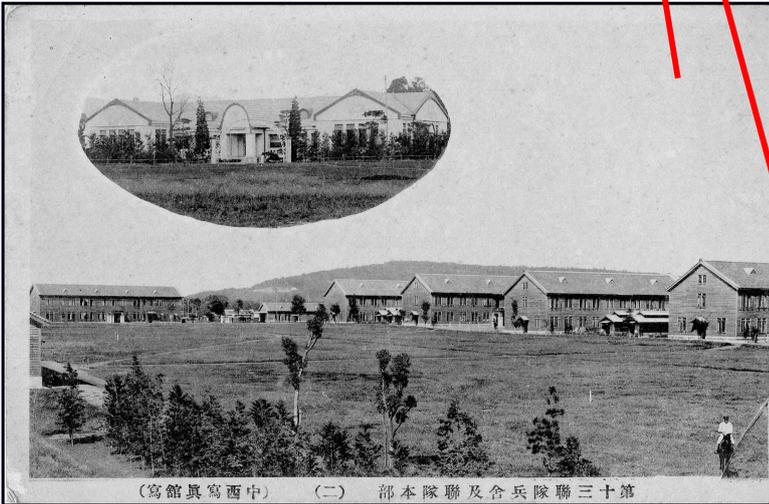
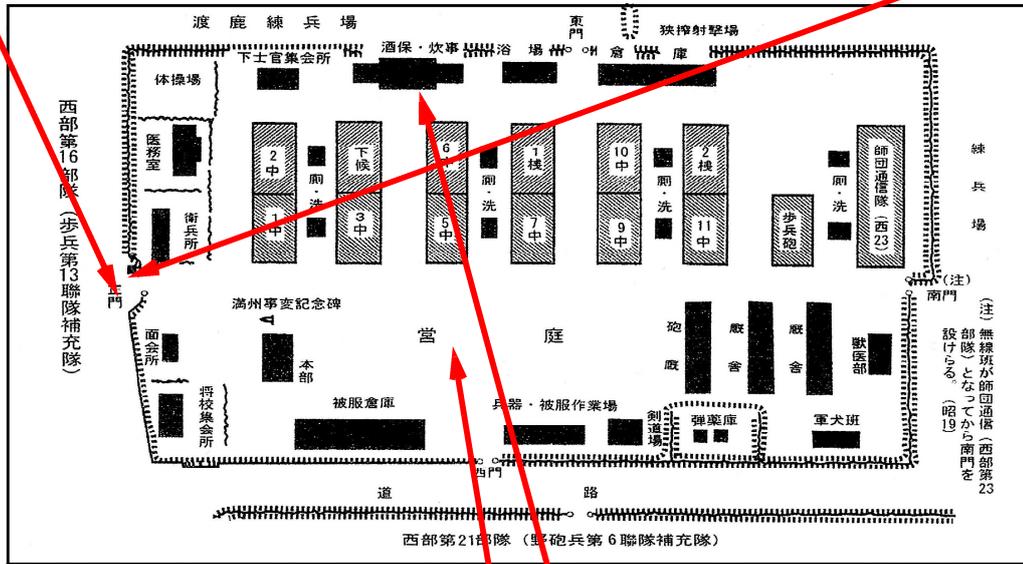
昭和五十六年三月吉日
元野砲兵第六聯隊並同関係部隊
将兵一同



大江の軍事施設付近地図（地図内の●印は、現施設名）1940年頃



(3) 歩兵第十三聯隊の概要



歩兵第十三聯隊配置図と各種の絵葉書写真 (中西写真館)・部隊誌より



4 健軍飛行場と三菱重工業熊本航空機製作所

※平和継承リーフレット『健軍飛行場』

①沿革と概要

- 「カミク」第九製作所として、三菱重工業熊本航空機製作所が、1945年4月29日「陸軍四式重爆撃機」進空式
- 健軍（熊本）飛行場は、当初三菱製作機の試験飛行場としたが、その後大刀洗陸軍飛行学校熊本教育隊、防空部隊が配備される。
- 沖縄特攻、5月24日「義烈空挺隊」出撃基地となる。
- 無蓋掩体壕の発見と消滅

②県下の一次疎開工場・二次疎開工場

- 45年4月学校工場等への「一次疎開」
- その後、6月頃から「二次疎開工場（地下工場）」へ

③学徒生徒による健軍本工場への勤労働員、学校工場への動員

- 多くの旧制中学校・高等女学校生徒の動員他
- 旧制玉名中学校へ、熊本航空機製作所工機工場機械群製図班、三菱玉中工場治具製造班、島津製作所九州疎開工場

④戦後の接収と現在

- 日本側証言と米海兵隊写真・映像等による接収状況の解明
- 一部は自衛隊駐屯地としての今

⑤何を未来に伝え、継承するのか

- 三菱重工業熊本航空機製作所第二組立工場を伝える！



- 敗戦後の健軍飛行場「飛龍」米海兵隊接収写真
- 玉中工場使用の三菱配給品

5 限庄飛行場

※平和継承リーフレット『碧空に祈る』『平成28年熊本地震被災』

①沿革と概要

- 大刀洗陸軍飛行学校限庄分教所・教育隊、沖縄攻撃支援の飛行第百十戦隊背部基地、特攻機中継基地となる

②三船敏郎様の戦時演劇写真

- 本部付け気象班員として、特攻隊員を見送り、敗戦を迎える。

③戦後の接収、オキュパイト写真の発見

- 米軍接収状況の解明

④何を未来に伝え、継承するのか

- 熊本地震の被災



6 まとめ ～フィールドワーク・ダークツーリズムを通して何を学ぶのか～

□ダークツーリズム

- 戦跡や被災地等を観光対象とした「ダークツーリズム」という視点
- 「人類の悲しみを継承し、亡くなった方を共に悼む旅」として、既に国際的に定着した概念
- 日本が近代化する過程での「ゆがみやひずみ」が如実に現れた地域であり、近現代史を多面的に学ぶことができる文化遺産
- 日本では、広島・長崎の被爆地や沖縄戦跡への、小・中・高校生の修学旅行や一般の方々の学ぶ旅行としても定着

□史実に込められた「歴史の重み」、昭和の歴史の教訓

□一人ひとりが戦争遺跡・遺産と向き合い「語り手」

「継承者」として語り継ぐ

- ①戦争遺跡の調査、保存、継承・活用
- ②戦争遺跡・遺産は、貴重な歴史資料として「国民共有の財産“文化財”」
- ③庶民の戦時資料の調査と継承は「地域協働の平和学」
- ④広島「被爆体験伝承者」と長崎「平和案内人」による「非当事者による語り」での継承



- 三船敏郎の戦時演劇写真
- 限庄飛行場オキュパイト写真



連絡先

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表
平和憲法を活かす熊本県民の会 代表幹事 高谷 和生
Eメール takayanagi912@yahoo.co.jp
HP URL https://www.kumamoto-senseki.net/

《第6回》 くまもと戦争遺産の旅 隈庄飛行場、松橋空襲と軍人像をめぐる旅

「九四五年陸軍隈庄飛行場で敗戦をむかえた」世界のミラネは、部隊祭での一枚の演劇写真を残して、銀幕にデビューしました。往事のミラネの足跡をたどり、大刀洗陸軍飛行学校時代の戦争遺跡をめぐる旅です！米軍機により太平洋戦争末期に、交通インフラをねらった「松橋空襲」残された「永代鉄橋」と「紙の爆弾 伝単」からの空襲実相を知ります！亡くなった家族の慰霊のための軍人像、今も慰霊される軍人丸さん。県史と上天草に残る戦争の傷跡に触れ、非戦への思いをつなげます。

協賛 八日市市飛行場中隊第九八隊当時の三船敏郎氏

協 力 文化遺産ネットワーク

くまもと戦争遺産 平和憲法を活かす熊本 一般社団法人くまもと戦争遺産ネットワーク
http://www.kumamoto-peace.com/

旅行企画・実施 コーディネーター 高谷和生

〒860-0084 熊本県北區山鹿町山鹿6丁目8番2号
TEL 096-345-0811

第6回 くまもと戦争遺産の旅



【案内ガイド】
くまもと戦争遺産・文化遺産ネットワーク
代表 高谷和生
1954年熊本県玉名市生まれ。熊本県内の近代戦争史跡に最新の戦術考古学的手法を用いた調査・検証等を行っており、その調査結果を「熊本の戦争遺産」を著しながら、新たな平和活動「くまもと戦争遺産」を提唱。くまもと戦争遺産・文化遺産ネットワーク代表、戦争遺産保存会ネットワーク運営委員。

■ご旅行日 2024年 10/13(日)

■集合場所 熊本駅 新幹線口※貸切バス乗り場の黄色い小型バスにご集合ください。

- 集合時間 午前08時50分
- ご旅行代金 お一人様 おとな 12,000円 こども 同額
- 申込締切 10月4日(金) (3歳以上～12歳未満)
- 申込締切前日以前でも定員に達した場合には、お申し込みを終了させていただきます。
- 乗車人員 24名様(最少乗車人員15名)
- 食事 昼食 1回付
- 送迎 乗員 同行しお世話いたします。
- 併発地 熊本プラザバス

【旅の趣旨】

戦後79年を迎えるにあたり、県内各地に残されている戦争の記憶をつたえる戦争遺産をめぐる旅の六回目。城南・宇城・天草方面で実施します。「戦禍の記憶」を振り返り、いまウクライナ戦争やガザ地区戦闘の現実を見据え「平和の大切さ」を考える機会となります。

【主な内容】

- ◆三船敏郎氏が敗戦を迎えた「陸軍隈庄飛行場」見学
戦時下の昭和16年6月、大刀洗陸軍飛行学校の隈庄教育隊が設置され、将校学生以下、約1千名のパイロットが巣立っていました。戦局が厳しくなった昭和20年4月、隈庄飛行場は飛行第百十戦隊の基地となりました。この戦隊は、最新鋭爆撃機「飛龍」で編成された陸軍爆撃隊の中核部隊で、沖縄特攻攻撃の支援作戦に携わり、多くの若者たちが選らぬ人となりました。
・心字池(沖縄作戦へ飛び立つ直前、別れの杯を仲間と交わされた場所)
・弾薬庫
・練習機が待機していたエプロン(待機所)
・飛行機格納庫基礎
- ◆「松橋空襲」で、米軍機による攻撃跡が残る「永代橋梁橋」見学
- ◆上天草市大矢野町の、「山本家軍人像」見学
- ◆軍人丸大明神さんと嶋崎憲治郎さんの証言



昭和20年6月24日の空襲で被害を受けた三船敏郎氏



三船敏郎(左)で飛行機を操縦する九八隊員三船敏郎氏



大刀洗陸軍飛行学校時代の機庫の復元と旧門



本館行金庫につくされた「丸さん」と遺像の姿



上天草市大矢野町の「山本家軍人像」



昭和20年7-8月、米軍機による攻撃跡が残る松原の仮待機庫跡

【行程】

貸切バス 熊本駅 ===== 熊本県南區城南町・旧陸軍隈庄飛行場跡(「虚空に祈る」の碑・心字池・飛行機待機所跡・飛行機格納庫跡・弾薬庫跡) ===== 宇城市市松町・嶋崎遺跡と機銃陣跡が残る「永代橋梁・鉄橋」 ===== 道の駅不知火(昼食) ===== 宇城市三角町に残る物質庫 ===== 藍のあまぐさ村(休憩) ----- 上天草市大矢野町に存し、コルナールが建てられた山本家軍人像 ----- 藍のあまぐさ村(ショッピング) ===== 熊本駅 18:00散会

項目	内容
申込期間	9月10日(火)～10月4日(金)
申込締切	10月4日(金) 15:00
集合場所	熊本駅 新幹線口
集合時間	午前08時50分
集合人数	24名(最少乗車人員15名)
送迎	乗員 同行しお世話いたします。
併発地	熊本プラザバス
お問い合わせ先	TEL 096-345-0811

くまもと戦争遺産・文化遺産ネットワーク
平和憲法を活かす熊本の会
一般社団法人くまもと戦争遺産のミュージアム設立準備会
http://www.kumamoto-senseki.net/peace-kumamoto/

旅行企画・実施/お申し込み・お問い合わせ
コーディネーター 高谷和生

〒860-0084 熊本県北區山鹿町山鹿6丁目8番2号
熊本県北區山鹿町山鹿6丁目8番2号 熊本戦争遺産保存会
TEL 096-345-0811

協賛 八日市市飛行場中隊第九八隊当時の三船敏郎氏
協 力 文化遺産ネットワーク

営業時間/月曜日～金曜日 9:00～18:00(土曜・日曜・祝日は休み)